

目 次

巻頭言

本校の概要 1

創立の趣旨

沿革

使命・教育目的・受入方針 3

香川高等専門学校の使命

教育目的

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

組織 4

組織図

役付職員

現員

本科 6

一般教育科

[創造基礎工学系]

機械工学科 10

電気情報工学科 12

機械電子工学科 14

建設環境工学科 16

[電子情報通信工学系]

通信ネットワーク工学科 18

電子システム工学科 20

情報工学科 22

専攻科 24

創造工学専攻

機械工学コース

電気情報工学コース

機械電子工学コース

建設環境工学コース

電子情報通信工学専攻

国際交流活動 28

国際学術交流

学生の国際交流活動

香川高専・他高専・高専機構が主催・共催した

学生の国際交流活動

香川高専グローバルエンジニア研修プログラム

国際シンポジウム等の開催

外国人留学生

地域人材開発本部 30

地域人材開発本部組織図

スタッフ

みらい技術共同教育センター

地域イノベーションセンター

香川高専教員の研究分野、キーワード

産学官連携活動

地域社会連携活動

AI社会実装教育研究本部 34

社会基盤メンテナンス教育センター 35

研究活動等 36

科学研究費助成事業

受託研究

共同研究

その他競争的資金・助成金

情報処理施設 38

情報インフラストラクチャ

情報基盤センター

技術教育支援センター 39

学生相談等施設 40

学生相談室

キャリアサポートセンター

図書館 41

学生寮 42

清雲寮

七宝寮及び紫雲寮

福利厚生施設 43

自彊会館

福利センター

職員集会所

和敬館

合宿研修所

学生数と志願者状況 44

学生数

入学志願者数と入学者数

学生組織 45

学生会組織図

部活動及び同好会

進路状況 46

本科生

専攻科生

大学編入先一覧 本科生

大学院入学先一覧 専攻科生

就職先一覧

施設配置図 48

財政 48

収入・支出

寄附金受入状況

アクセスマップ 50

校歌 51

本校の概要

◇創立の趣旨

近年、社会の変化に伴って国立高専を取り巻く環境は大きく変化し、それに対応して高専には自ら変革することが強く求められてきています。即ち、あらゆる分野のグローバル化が進展し、科学技術の進歩と社会の高度化・複雑化が急速に進み、高専教育においても時代に対応した準学士課程の充実と専攻科の高度化が必要になっています。一方、少子・高齢化による社会の年代構成の変化とともに、子供達の理科離れ現象により高専の志願者数は減少傾向にありますが、社会の発展の基盤部分を支えていくという社会的責任の下に、高専としては、従来以上の高度な実践的・創造的技術者の育成を目指さなければなりません。

中央教育審議会大学分科会においては、高等専門学校特別委員会が設けられ、「高等専門学校教育の充実について」検討され、平成20年12月24日に16年ぶりで答申がなされています。そこには、開校以来高専が高い評価を得ていること、知識基盤社会の到来に対する技術の高度化に向けて、科学技術創造立国を実現するという観点からも一層の教育の充実・強化が必要であることなどが述べられています。また、学習意欲の高揚を図り、国際的な活躍が期待できる学生を育てるために、他の教育機関や産業界、地域社会との連携を進めることの必要性が提言されています。

これらの状況を踏まえて、香川地区では二つの高専の特色を活かしつつ、高度化再編を図り、本科を創造基礎工学系（高松キャンパス）と電子情報通信工学系（詫間キャンパス）の2工学系に大括りして、専攻科は本科の各工学系に対応した2専攻として、新しく「香川高等専門学校」を創立しました。この新高専の使命は、「豊かな人間性を有し創造力に富む実践的な技術者の育成」と「地域における知の拠点としての社会貢献」としています。そして、教育研究基盤並びに管理運営基盤の強化を基に、広い視野と創造性・問題解決能力に富む実践的な技術者を育成するとともに香川県の産業界や行政と連携を深めて地域の活性化に貢献します。さらに、四国地区高専の拠点校として、高専間の連携を図り、産業界や大学との広域連携体制を構築していきます。



◇沿革

高松工業高等専門学校（高松キャンパス）

昭和 37（1962）年 4 月

機械工学科 2 学級、電気工学科 1 学級からなる国立高松工業高等専門学校を創設

初代校長に増山義雄（大阪府立大学教授）就任

昭和 41（1966）年 4 月

土木工学科 1 学級を増設

昭和 49（1974）年 4 月

第二代校長に立松秋雄（文部省大学学術局科学官）就任

昭和 57（1982）年 4 月

第三代校長に國松治男（文部省初等中等教育局審議官）就任

昭和 61（1986）年 6 月

第四代校長に河西三省（京都大学名誉教授）就任

平成 2（1990）年 4 月

機械工学科 1 学級を改組し、制御情報工学科を設置

平成 3（1991）年 4 月

第五代校長に山本清（日本国際教育協会専務理事）就任

平成 6（1994）年 4 月

土木工学科を建設環境工学科に改組

平成 8（1996）年 7 月

第六代校長に平川忠男（大学入試センター副所長）就任

平成 11（1999）年 4 月

専攻科（機械電気システム工学専攻、建設工学専攻）を設置

平成 13（2001）年 4 月

電気工学科を電気情報工学科に名称変更

第七代校長に早野浩（文部科学省大臣官房文教施設部長）就任

平成 16（2004）年 4 月

独立行政法人国立高等専門学校機構高松工業高等専門学校に移行

平成 17（2005）年 4 月

第八代校長に塩谷幾雄（広島大学理事・副学長）就任

平成 20（2008）年 10 月

第九代校長に嘉門雅史（京都大学大学院地球環境学堂長、地球環境学舎長）就任

香川高等専門学校

平成 21（2009）年 10 月

高松工業高等専門学校と詫間電波工業高等専門学校を高度化・再編し、独立行政法人国立高等専門学校機構香川高等専門学校を設置
創造基礎工学系（機械工学科、電気情報工学科、機械電子工学科、建設環境工学科）、電子情報通信工学系（通信ネットワーク工学科、電子システム工学科、情報工学科）を設置

専攻科（創造工学専攻、電子情報通信工学専攻）を設置

初代校長に嘉門雅史（高松工業高等専門学校長）就任

平成 25（2013）年 1 月

香川高等専門学校創基 70 周年・高専創立 50 周年記念式典挙行

平成 26（2014）年 4 月

第二代校長に八尾健（京都大学大学院エネルギー科学研究科教授・工学部教授、前エネルギー科学研究科長）就任

平成 30（2018）年 4 月

第三代校長に安藤芳雄（大阪大学教授、産業科学研究所 附属産業科学ナノテクノロジーセンター長）就任

令和 3（2021）年 4 月

第四代校長に田中正夫（大阪大学大学院基礎工学研究科教授）就任

令和 6（2024）年 4 月

第五代校長に荒木信夫（一関工業高等専門学校長）就任

詫間電波工業高等専門学校（詫間キャンパス）

昭和 18（1943）年 10 月

官立無線電信講習所大阪支所を大阪府中河内郡矢田村に設立

昭和 20（1945）年 4 月

官立大阪無線電信講習所と改称

昭和 24（1949）年 4 月

香川県三豊郡詫間町に移転、国立学校設置法の施行により詫間電波高等学校と改称

昭和 46（1971）年 4 月

国立詫間電波工業高等専門学校を設置

初代校長に石黒美穂（徳島大学工学部教授工学博士）就任

昭和 51（1976）年 4 月

電波通信学科 2 学級、電子工学科 1 学級に改組

昭和 54（1979）年 4 月

第二代校長に田中哲郎（京都大学工学部教授工学博士）就任

昭和 55（1980）年 4 月

電波通信学科 2 学級を電波通信学科 1 学級、情報工学科 1 学級に改組

昭和 60（1985）年 4 月

電子制御工学科 1 学級を増設

昭和 62（1987）年 4 月

第三代校長に浅井健次郎（京都大学理学部教授理学博士）就任

平成元（1989）年 4 月

電波通信学科を情報通信工学科に名称変更

平成 3（1991）年 4 月

第四代校長に片山健一（京都大学化学研究所教授理学博士）就任

平成 8（1996）年 4 月

第五代校長に布川晃（京都大学工学部教授工学博士）就任

平成 13（2001）年 4 月

第六代校長に竹内賢一（京都大学大学院工学研究科教授 Ph.D）就任

平成 16（2004）年 4 月

独立行政法人国立高等専門学校機構詫間電波工業高等専門学校に移行
専攻科（電子通信システム工学専攻、情報制御システム工学専攻）を設置

平成 18（2006）年 4 月

第七代校長に高畑秀行（高松工業高等専門学校 機械工学科教授）就任

使命・教育目的・受入方針

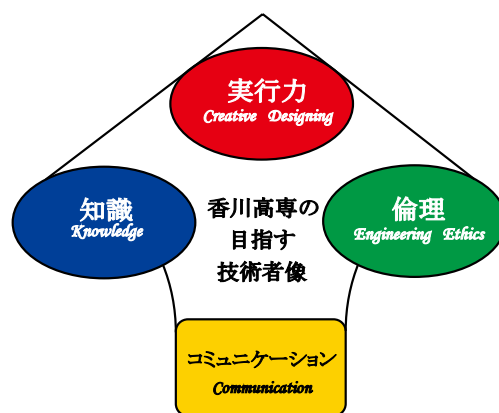
◇香川高等専門学校の使命

豊かな人間性を有し創造力に富む実践的な技術者の育成
地域における知の拠点としての社会貢献

◇教育目的

本校では、教育目的を次のように設定しており、教育課程の具体的な学習・教育目標はこれを基本として構成されています。

- ◇広い視野を持ち、自然との調和を図り、人類の幸福に寄与できる技術者を養成する。(倫理)
- ◇科学技術の基礎知識と応用力を身につけ、時代の変遷に対応できる技術者を養成する。(知識)
- ◇課題解決の実行力と創造力を身につけ、社会に有益なシステムを構築できる技術者を養成する。(実行力)
- ◇物事を論理的に考え表現する能力を身につけ、国際的に活躍できる技術者を養成する。(コミュニケーション能力)



この図案は、知識・倫理・実行力を三位一体として、技術を磨きつつ人格の形成を目指し、これを基本として論理的な思考力・表現力でグローバルなコミュニケーションを通して社会に貢献すると共に、その影響・効果に責任を持ち、常に技術の修得に上昇志向で取り組むことを旨としています。

赤は情熱的な果敢な精神を、緑は穏やかな癒しの精神を、青は知識の泉を表しています。同時に RGB は光の三原色であり、上記の三位一体の概念を含ませています。これに加えて、橙色は自由な精神とグローバル性を表しています。

◇アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

本校の教育目的を達成することができるように、中学卒業生としての基礎学力と学習意欲を有し、技術者を志す次のような人を求めます。

〈本校の求める学生像〉

- ・技術や科学に関心のある人
- ・数学や理科への興味、勉学意欲のある人
- ・自主性と協調性、積極性のある人
- ・人と自然を大切にする人

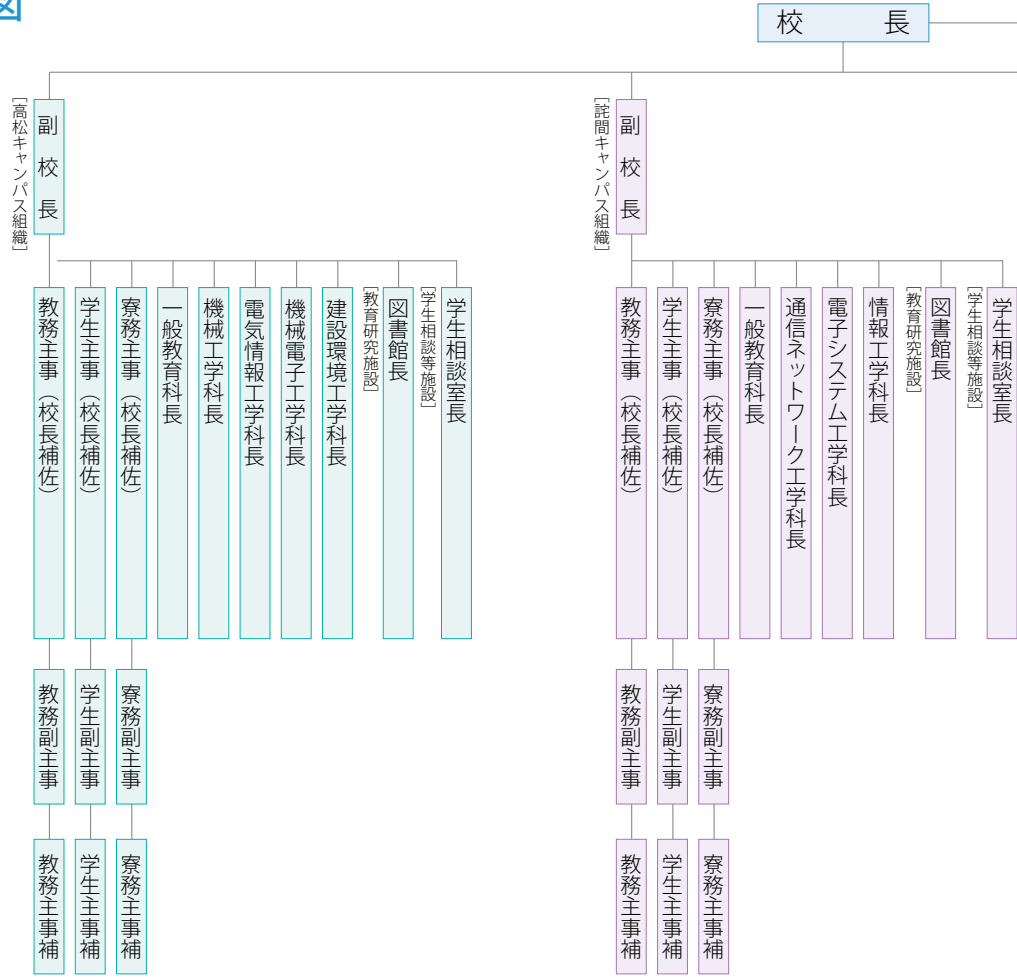
求める学生像に基づき、その能力・適性において本校の教育を受けるにふさわしい資質を有する学生を選抜することを目的とし、推薦と学力検査による選抜を行います。

推薦による選抜では、本校の教育を受けるのに必要な素養・目的意識と基礎学力を有する学生を選抜するため、推薦書、調査書及び科目に関する口頭試問を含む面接を総合評価します。

学力検査による選抜では、本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有する学生を選抜するため、学力検査と調査書を総合評価します。

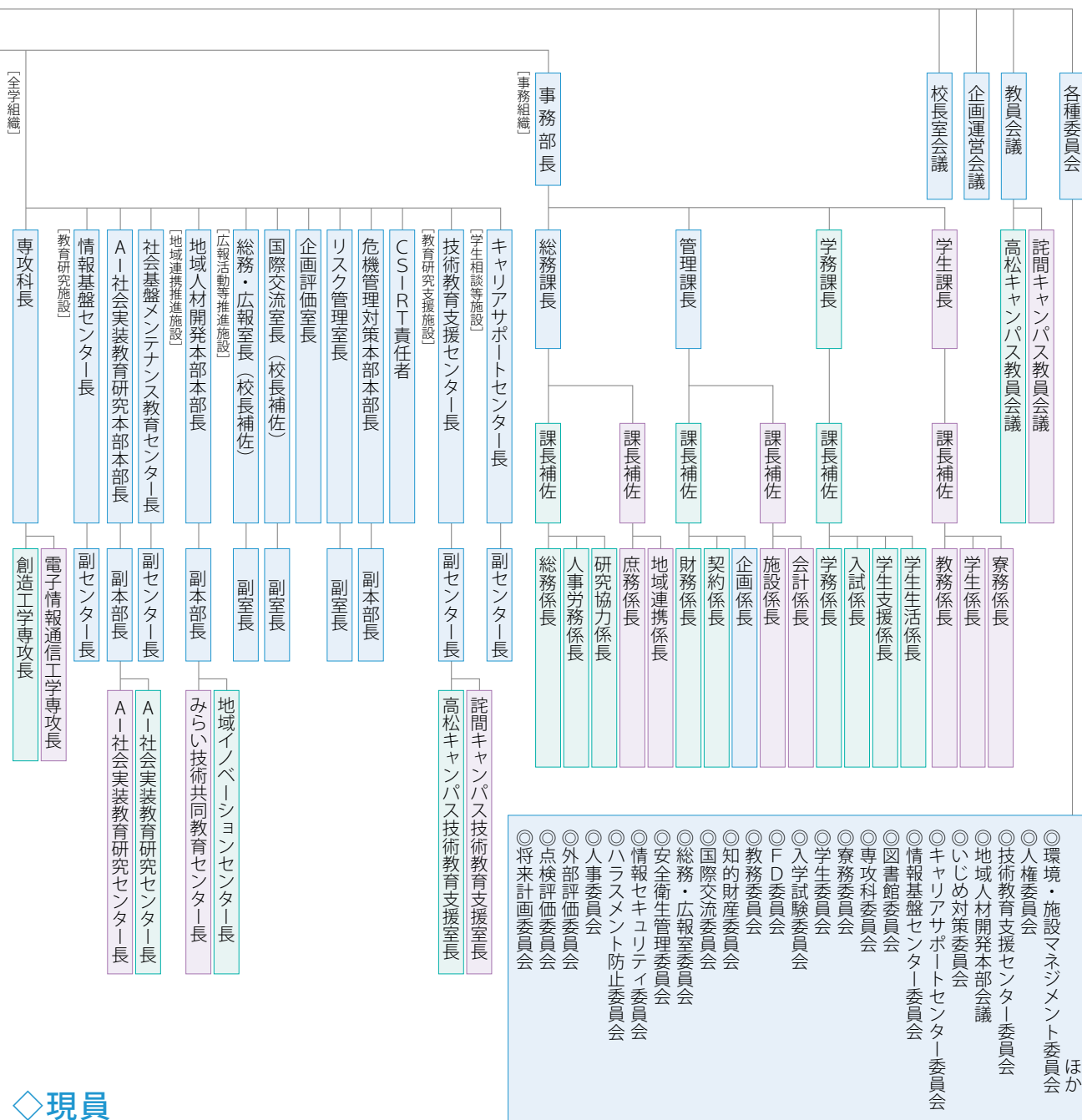
組織

◇組織図



◇役付職員

	役 職 名	氏 名		役 職 名	氏 名		役 職 名	氏 名
高松キャンパス	校長	荒木 信夫	詫間キャンパス	副校長	矢木 正和	全学組織 (専攻科) (教育研究施設) (地域連携推進施設) (広報活動等推進施設) (教育研究支援施設) (学生相談等施設) 事務部	専攻科長	重田 和弘
	副校長	小島 隆史		教務主事 (校長補佐)	一色 弘三		創造工学専攻長	重田 和弘
	教務主事 (校長補佐)	吉永 慎一		学生主事 (校長補佐)	金澤 啓三		電子情報通信工学専攻長	小野安季良
	学生主事 (校長補佐)	吉澤 恒星		寮務主事 (校長補佐)	高城 秀之		情報基盤センター長	白石 啓一
	寮務主事 (校長補佐)	多川 正		一般教育科長	有馬 弘智		AI社会実装教育研究本部本部長	徳永 秀和
	一般教育科長	中瀬巳紀生		通信ネットワーク工学科長	真鍋 克也		社会基盤メンテナンス教育センター長	林 和彦
	機械工学科長	上代 良文		電子システム工学科長	月本 功		地域人材開発本部副本部長	向谷 光彦
	電気情報工学科長	漆原 史朗		情報工学科長	近藤 祐史		みらい技術共同教育センター長	矢木 正和
	機械電子工学科長	正箱信一郎		図書館長	内田由理子		地域イノベーションセンター長	向谷 光彦
	建設環境工学科長	荒牧 憲隆		AI社会実装教育研究センター長	徳永 修一		総務・広報室長 (校長補佐)	澤田 士朗
(教育研究施設)	図書館長	田口 淳	(学生相談等施設)	学生相談室長	河田 純		国際交流室長 (校長補佐)	太良尾浩生
	AI社会実装教育研究センター長	村上 幸一					技術教育支援センター長	小島 隆史
(学生相談等施設)	学生相談室長	野田 数人					キャリアサポートセンター長	辻 正敏
							事務部長	朝國 誠司
							総務課長	吉野 幸恵
							管理課長	西原 宏晃
							学務課長	財津 電信
							学生課長	海老野 薫



◆現員

教員数

区分	校長	教授	准教授	講師	助教	助手	合計
現員	1	36	32	19	11	0	99

令和6年5月1日現在

職員数

区分	事務系	技術系	合計
現員	55	25	80

令和6年5月1日現在